

2024 年度 大型図書 研究成果（経過） 報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名	採択年度
「聖語蔵経巻 第五期 乙種写経 第五期10回配本 DVD 4枚」	2022年度

1. 研究の概要について

本資料は、東大寺尊勝院所蔵の古写本を集大成する「聖語蔵経巻」のうち「乙種写経」のカラーデジタル版である。このたびの配架によって乙種写経を含む「聖語蔵経巻」の一大叢書が本学深草図書館に全巻整備されたこととなった。今回購入分である第10回配本で、第五期配本分が完結することとなった。

この種の出版物の性格上頒布数が寡少であり、この機会を逸した場合、購入できない可能性が高く、叢書の一部を欠いたものとならざるを得ない。このことは図書館にとっても、研究者にとっても非常に不便となる。そのような難を避けるために、本学図書館に一括配備する必要があると考え、これまで、本大型図書整備費や、学部図書予算など、あらゆる方法で、配架に努めてきた。

報告者（本資料購入申請代表者）は、「龍谷大学深草図書館に来れば、聖語蔵の全画像が見られる」という研究環境を整えたこと自体に、大きな価値があると考えている。今回購入した資料に加え、2023年度にも、第六期第1回配本分(版経之部・雑書之部)を、申請・購入・配架することができ、また2024年度も第2回配本分を申請中である。

現在、他大学・研究機関の中で、本資料を全巻配備しているのは稀少となっている。出版元の丸善雄松堂によれば、関東2校、関西3校にとどまるとのことである。これらを直接使用した直近の研究成果を出すこともさることながら、大学内の教員・非常勤講師・諸センター所属の研究者（嘱託研究員）・院生を含む学生にとどまらず、学外の研究者に開かれた資料であることの方が重要である。

将来的にはこの種の基礎資料は、インターネットを通じて国内外に公開されることが望ましいが、現時点ではそのような動向になく、正倉院の現物資料を実見するか、本DVD資料によるほかはない。前者はほぼ不可能であり、現時点では、深草図書館に保管された本資料（画像資料）を適宜閲覧することが最善の方法である。

本資料の全巻配備は、本学ならではのブランディングの浸透、特に研究面の支援体制への社会的認識を拡大させる波及的効果をもつことになると考える。

2. 購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。

報告者（本資料購入申請代表者）は、世界仏教文化研究センター基礎研究部門「西域総合研究班」の代表をつとめ、国内外の中央アジア出土資料に関する研究を進めている。敦煌やトルファン出土の古写本のうち、系統を同じくする写本が日本に存在していることが分かっており、中央アジア出土写本と日本の聖語蔵との関連研究を進めることが可能となる。具体的には、中央アジアを経て日本にまで伝わったテキストを持つ仏典がどの程度存在するのか、そのテキストはどのような経路を経て日本にまでたどり着いたのかといった、仏教文献のテキストの系統を知ることができる。

加えて、2022年度より、長年大蔵経研究に足跡を残した、本学元教授小川貫弑氏旧蔵資料の総合研究グループが正式に発足した。現在、写本及び版本の総合的調査に着手しており、2024年度及び2025年度に『世界仏教文化研究論叢』に目録を基本とする論考が掲載される予定である。これらの研究との連携や対照研究が可能となる環境が整備されたことも特筆される。

2023年9月3日に、龍谷大学を会場として「日本印度学仏教学会」第74回学術大会が開催され、報告者は、世界仏教文化研究センター「西域総合研究班」代表として、「大谷探検隊と大谷コレクションが拓く知の地平」と題するパネルを統括した。報告者（三谷）のほか、西域総合研究班の研究員である橘堂晃一、荻原裕敏、檜山智美、村岡倫がパネリストとして参加した。そこでは、2011年開催の同学会でおこなった同趣旨のパネル以降の動向や最新の研究成果を発表した。

直接、本資料について言及することはなかったものの、日本における一大写本叢書が画像レベルで閲覧可能な環境にあることは、陰に陽に斯学の研究進展の利となっていると考えられる。また、和顔館が大会本部、及びパネル発表の会場であったこともあり、学会関係者や現地で対面参加したパネル発表者（全4パネル中3パネル）には、本資料を所蔵する深草図書館の存在を知る好機となったと思われる。

また、報告者は、「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」のセンター長もつとめており、古写本のデジタルアーカイブやその利活用について、本資料の効果的利用の側面から種々の検討をおこなうことも視野に入れている。特に、近年取り組んでいる「機械学習(machine learning)」の手法を用いた書体分析による年代判定基準の策定に向けて、有効な資料となることが期待されている。

さらに、報告者は、武田科学振興財団・杏雨書屋の運営協議員をつとめており、同書屋所蔵の敦煌・トルファン写本を選定して展示会を企画している。2022年度には「杏雨書屋の宗教文献～『敦煌秘笈』『磧砂版大蔵経目録』とその周辺」（杏雨書屋第75回特別展示会）と題する展示会をおこない、2025年4月には、その続編として非漢字資料を中心とした展示会や講演会を実施予定である。本資料の存在は、有形無形の知的財産となり、資料的価値の確定や展示品の選定に役立っていることは言うまでもない。

以上のように、本資料の直接的活用とは言えないまでも、国内でも、欠本なく全巻セットで保管する機関は希少であり、種々の図書費を活用しつつ、全学共通資料として、深草図書館に配備される意義は極めて大きいと考える。

今後、当該資料の所蔵について、本学の講義や研究発表だけでなく、国内外のあらゆる場面において周知していくことが大切である。

3. 研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

【雑誌論文】

- ・ 三谷真澄・佐藤智水「小川貫弑師旧蔵資料の総合的研究」（三谷真澄「小川貫弑師旧蔵資料研究班発足の経緯と研究課題の概要」分担執筆）『世界仏教文化研究論叢』62, 2024, pp.1-48. 【査読有り】
- ・ 三谷真澄「第七十五回特別展示会 見どころ紹介」『杏雨』（武田科学振興財団・杏雨書屋）26, 2023, pp.225-261.
- ・ 三谷真澄「セッション No. 2 の発表に対するコメント」『日本仏教学会年報』87, 2023, pp.215-223.
- ・ 三谷真澄「大谷探検隊と大谷コレクションが拓く知の地平」（第74回学術大会パネル発表報告）『印度學佛教學研究』72-2(162), 2024.03, pp.718(251)-717(252).
- ・ 三谷真澄「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センターの歩みと展望」『人間・科学・宗教総合研究センター研究紀要』2023年, 2024.03, pp.37-51.
- ・ 道元徹心「龍谷大学図書館所蔵『観心辨異』の検出について」『印度学仏教学研究』72(1), 2023.03, pp.1-11. 【査読有り】
- ・ 阿毘達磨集論研究会（早島慧他）「梵文和訳『阿毘達磨集論』(8) — 蘊界処の次第・意味・喩例・分類的考察 —」『インド学チベット学研究』(27), 2023.12, pp.45-87. 【査読有り】
- ・ 西山亮, 早島慧「Prajñāpradīpa-tīkā 第 XXIV 章テキストと和訳(5) — uttarapakṣa 4 —」『インド学チベット学研究』(27), 2023.12, pp.89-107. 【査読有り】
- ・ 早島慧「『大乘莊嚴經論』注釈書における agotra」『日本仏教学会年報』(87), 2023, pp.207-226.

【図書】

- ・ 早島慧編『『大乘莊嚴經論』第III章の和訳と注解：菩薩の種姓』法蔵館(392p.), 2024.03.31.
- ・ 長谷川岳史・小野嶋祥雄・村上明也・吉田慈順(共編著)『石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』卷一の翻刻と訓読』法蔵館, 216p., 2024.03.31.
- ・ 龍谷ミュージアム編『真宗と聖徳太子』（阿部泰郎, 和田恭幸, 石川知彦, 村松加奈子, 道元徹心分担執筆:コラム1「聖徳太子講式」）、龍谷大学、2023.03.
- ・ 龍谷大学真宗学会編『龍谷大学真宗学一〇〇年史』（嵩満也分担執筆：「敗戦後における真宗学会の課題とその展開—民主化・差別問題・教団改革—(pp.118-126)」、「真宗学の現在地とその方法論をめぐって(pp. 277-291)」、「真宗学の国際化の歩み(pp.239-248)」2024.02.

【学会発表】

- ・ 三谷真澄（パネル代表）「大谷探検隊と大谷コレクションが拓く知の地平」日本印度学仏教学会第74回学術大会（龍谷大学）、2023年9月3日。【審査有り】
- ・ 三谷真澄「大谷探検隊の概要と大谷コレクション」日本印度学仏教学会第74回学術大会パネル発表（龍谷大学）、2023年9月3日。
- ・ 三谷真澄「考古資料としての仏教写本～デジタルアーカイブの現場から」モンゴル国科学アカデミー考古研究所、モンゴル仏教センター・ガンダンテグチェンリン寺学術文化研究所主催「仏教と考古学」学術会議（モンゴル・ウランバートル市ガンダン寺）、2023年11月6日。
- ・ MITANI, Mazumi: Chinese Buddhist Manuscripts Excavated from the Western Regions and Digital Humanities. The Inheritance and Development of Qiuci Studies in the New Era: Kucha, China, (Kucha Hotel). 2024/10/25-30(発表予定).

【講演会】

- ・ 嵩満也「12世紀から13世紀の日本浄土教改革運動に対する南宋仏教の影響」アリゾナ大学・花園大学・龍谷大学世界仏教文化センター共催国際ワークショップ、2023年5月24日。
- ・ Professor San Tun (Department of Buddhist Philosophy, Dhammaduta Chekinda University, Myanmar) "Philosophy of Body and Environment in Buddhism with special reference to *Dhammacakkappavattana Sutta* and *Anattalakkhana Sutta*" (龍谷大学大宮学舎)、2024年6月13日(三谷真澄：司会・通訳)。
- ・ Prof. Dr. Abdurishid Yakup(Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Deutschland)"Buddhist Culture of the Silk Road - On the Printed Old Uyghur Abhidharma Texts in Japan and the German Turfan Collection" (龍谷大学大宮学舎)、2024年9月27日(予定)(三谷真澄：講師紹介)。

☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。

☆資料購入後、**1年以内に研究経過報告書**を提出し、また、**3年以内に研究成果報告書**を提出してください。

加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。

2020年度採択締切：【研究経過報告書】2022年3月31日、【研究成果報告書】2024年3月31日

2021年度採択締切：【研究経過報告書】2023年3月31日、【研究成果報告書】2025年3月31日

2022年度採択締切：【研究経過報告書】2024年3月31日、【研究成果報告書】2026年3月31日

2023年度採択締切：【研究経過報告書】2025年3月31日、【研究成果報告書】2027年3月31日

2024年度採択締切：【研究経過報告書】2026年3月31日、【研究成果報告書】2028年3月31日